

「第1回御船町恐竜博物館建て替えに関するワークショップ」

ご報告書

2011年11月

熊本県やさしいまちづくり推進計画  
「対話によるUD空間整備促進モデル事業」

NPO 法人 UD くまもと

## 1. 本ワークショップの目的

御船町恐竜博物館基本構想（H23・3）に基づく建て替え準備段階に際し、より有効かつ効率的なユニバーサルデザイン（以下 UD という）化を実現する為、現博物館の状態を把握し、設計前段階でのアドバイスを行うために多様な障がい当事者の意見を聴取することを、本ワークショップの目的とする。

## 2. ワークショップに至る経緯

意見聴取を全体的に総合プロデュースする仕組みを有する、「対話によるUD空間整備促進事業」を用い、御船町恐竜博物館の建て替えをモデルケースと定め、会議を行ってきた。

### (1) 第1回会議

会議日：平成23年10月11日（火）

場 所：御船町恐竜博物館学習室

#### ①出席者

##### ●御船町

御船町教育委員会社会教育課 芥川 昭美 氏

同上 橋口 剛士 氏

恐竜博物館理学博士 池上 直樹 氏

##### ●熊本県

熊本県健康福祉部福祉政策課福祉のまちづくり室 下村 正宣 氏

〃

川崎 秀忠 氏

##### ●NPO法人UDくまもと

矢ヶ部孝志

大川 幸恵

#### ②協議内容

本事業の趣旨説明及び、今後のスケジュール等の確認が行われた。

基本設計および展示設計に関しても障がい当事者意見に限らずUDの考え方にに基づき、様々な立場からのヒアリング等を介し、当法人から積極的に提言を行う旨の理解を得た。

## (2)第2回会議

会議日：平成23年10月25日

場 所：御船町カルチャーセンター出演者控室

### ①出席者

#### ●御船町

御船町教育委員会社会教育課 宮崎 靖 氏

同上 芥川 昭美 氏

恐竜博物館理学博士 池上 直樹 氏

#### ●NPO法人UDくまもと

矢ヶ部孝志

大川 幸恵

### ②会議内容

御船町から基本構想・基本計画（御船町が考えるコンセプト）の詳細説明を受ける。

今回の恐竜博物館は町の活性化にも重点を置き、地域へ貢献し成長する博物館にしたい。これを理念とし次世代を担う子どもたちを中心とした活動方針を掲げ、九州を代表する博物館を目指したいとのこと。

上記基本計画に対し当法人からは、成長していく為には魅力的な人材の確保が不可欠であることに併せ、ハード面の整備が6割、人的ソフトの面が4割を占めるとの意識で取り組む必要性を述べた。多様な来館者に対して柔軟に人的対応をすることで本当のUD化が実現するとし、具体的なアドバイスを設備ハード面と、展示設計設備の部分に分けて行っていく旨の合意を得た。

展示設計に関して池上氏より、子どもの意見として「恐竜の背中に乗りたい」という希望があったことから、1階から2階までスロープで回遊しながら恐竜の視点から高さや大きさを実感できる展示構想があることを聴取。その他、博物館周辺のアクセスに関する道路標示の方向性についても協議を行った。

以上により今後、設計段階において当初より考慮すべき点を整理し、把握しておく必要がある旨の合意を得た。

以上の会議結果を受けて、「第1回御船町恐竜博物館建て替えに関するワークショップ」を開催し、多様な当事者のパッケージを派遣することで、現状の把握と具体的な改善点の洗い出しを意見聴取と併せて実現したい。

### 3. ワークショップの概要

#### (1) ワークショップ名称

「第1回御船町恐竜博物館建て替えに関するワークショップ」

#### (2) 開催日程

場 所 御船町恐竜博物館（上益城郡御船町大字御船 995-3）

日 時 2011年11月16日（水）13：30（集合）

日 程 14：00 趣旨説明

・提言のポイントについてブリーフィング

↓ ・障がい状況に応じ、今後の改善点調査を行う

①自走車いすユーザー

↓ ②電動車いすユーザー

③視覚障がい者

↓ ④高齢者（準・スタッフ兼任）

⑤子育て経験者（準・スタッフ兼任）

15：00 御船町カルチャーセンターに帰集

・各自からの聞き取り

↓ ・情報の取りまとめと確認

・その他

15：30 解散

### 4. ワークショップ参加者

#### ●御船町恐竜博物館建て替えに関する調査検討委員

自走車いすユーザー 1名 40歳代（女性）

電動車いすユーザー 1名 30歳代（男性）

視覚障がい者 1名 40歳代（男性）

#### ●熊本県健康福祉部福祉政策課福祉のまちづくり室より

下村 正宣 氏

川崎 秀忠 氏

#### ●御船町より

御船町教育委員会社会教育課 宮崎 靖 氏

御船町恐竜博物館理学博士 池上 直樹 氏

● NPO法人UDくまもとスタッフ

矢ヶ部孝志（短時間の歩行可能な自走車いすユーザー）

高齢者の歩行動線に準じた調査を兼任

大川 幸恵（子育て経験者）

ベビーカーの走行動線や子育て目線に準じた調査を兼任



## 5. 実施検証課題

現状の御船町恐竜博物館において、多様な障がい当事者の視点から問題を検証し、改善点を今後の設計に反映するために意見聴取並びに問題点と改善点を整理する。

### (1) 自走車いすユーザー/電動車いすユーザー(共通)

- ・ 駐車場からエントランスまでの動線の検証
- ・ スロープ、入口、通路幅の検証
- ・ 展示物の見やすさ
- ・ トイレの位置、使いやすさの検証

### (2) 視覚障がい者

- ・ 点字ブロックの検証
- ・ 点字や音声による展示物の説明などの検証
- ・ 移動動線の安全性などの検証
- ・ 施設内の照明の明るさなどの検証
- ・ トイレの位置、使いやすさの検証

### (3)高齢者目線

- ・トイレの位置、使いやすさの検証
- ・展示物の見やすさの検証
- ・建物内回遊時の休憩箇所を検証

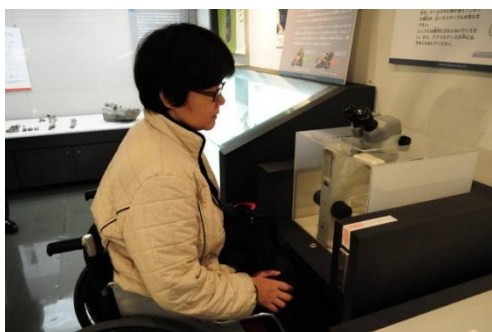
### (4)子育て目線

- ・駐車場からエントランスまでの検証
- ・トイレの使いやすさの検証
- ・子供目線での展示の見やすさの検証
- ・通路幅の検証

## 6. 検証結果・意見要望

### (1)自走車いすユーザー

- ①エントランスに関しては、現状のスロープが比較的急傾斜のため、自走車いすユーザー単身での移動が難しいと思われた。
- ②通路幅は車いすの離合が精いっぱいの状態、広げる必要があるのでは。
- ③展示物を斜めに展示することで、車いすの視点からも見やすくなるのでは。
- ④顕微鏡を使った展示物は現状では車いすから見る事ができない、展示用の棚の下部に車いすが入る開口部を設けるなどの工夫が必要と思われた。

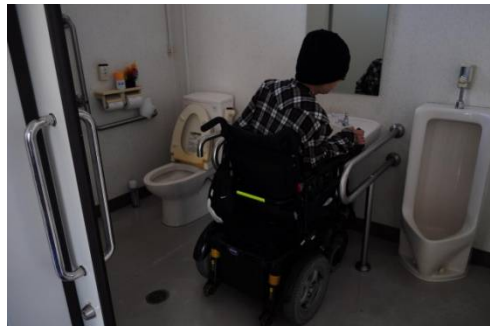


### (2)電動車いすユーザー

- ①トイレの位置がスロープ途中の為、入口へのエントリーが困難。  
ドアを開閉が不可。
- ②トイレ内部の手洗いに不要な手すりがあり、車いすの転回が困難。
- ③ルーペや顕微鏡が覗けない、展示用の棚の下部に車いすが入る開口部を整備することで観覧が可能になるのでは。

④展示棚の視線延長に障害物があり、展示品と説明文が車いすから見えない場合がある。

⑤床材の材質が雨にぬれると滑りやすくなるため工夫が必要と思われた。



### (3) 視覚障がい者

①点字ブロックが無く、移動に不安を感じる事が多い。

②案内受付の位置が分からない。

③時代ごとに順路と音声説明などがあるとわかりやすいと感じた。

④触れる化石のレプリカは楽しめる。どれが触る事が出来る展示物なのか、わかりやすくしてほしい。

⑤館内の照明が暗いと感じた、明るくする、あるいは、点字ブロックにハイライトがあるものを選ぶと良いのでは。

足元のみ明るい照明を設置するなどの工夫も有用と思われた。

⑥モニターや音声案内などがあると視聴覚障がい者にはより楽しみやすい。



#### (4)総合・その他 高齢者目線・子育て目線含む

- ①表示の文字にルビをふったほうがいい。
- ②文字サイズが小さいので、大きくした方がいい（高齢者目線）。
- ③外国人インバウンドを想定、他言語表記の必要があるのでは。
- ④トイレやエレベーターなどはピクトグラムで表示することが望ましい。
- ⑤展示物の説明が学術的で子どもが楽しむには難解と感じた。  
学術的記述の展示と子どもにもわかりやすい展示に住み分けが可能か。
- ⑥来場者には高齢者も多いと想定できることから、ベンチを要所に設けることで、滞留時間を延ばせるのではないか。
- ⑦駐車場から入り口までの動線にも点字ブロックが必要。
- ⑧高齢者でも理解しやすい説明版の設置も必要と感じた。



## 7. 今後へ向けて

今回のワークショップ開催において、上記のとおり様々な立場から、貴重な意見要望を得ることができた。

以上の結果を受けて、御船町担当者や施工業者への打ち合わせを密に行い、設計のアウトラインにおいて多様な障がい当事者の意見を積極的に反映することが重要と思われる。

御船町恐竜博物館基本構想（H23・3）に基づき、誰でもが同じように楽しめるUD空間を創造することを目指し、御船町が目指す地域に根差す成長し続ける博物館の建設へ今後一層の貢献をするものとする。